

校長だより あおすげ

令和6年4月12日号

校長 竹内 重幸

10日（火）の入学式は、見上げると「気持ちの良い青空と満開の桜」足元を見ると「桜の花びらの道」と、まさに入学式日和となりました。72名の新入生の入場する姿や一人一人の返事は、大いなる希望だと感じました。

また、在校生の代表として入学式に臨んだ6年生も立派でした。「立腰」の姿勢や美しい校歌など、「青菅小学校の顔」としての自覚が芽生えていることを感じました。

さらに、今年入学した1年生も、6年後には、迎える立場として立派に責任を果たしていることを想像し、小学校での6年間の成長や教育の重要性、我々教職員の責任の重さを感じる瞬間でもありました。



入学式終了後に、保護者の皆様に直接話をすることができました。要約すると以下の4点です。

- ① 家庭と学校は、お子さんの成長を支えていくパートナーです。お互いがリスペクトして、お子様のために情報交換や提案ができる関係でありたいと考えています。
- ② お子さんの帰宅後は「楽しかったこと」「頑張ったこと」をたくさん聞いてください。褒めるチャンスが生まれます。このやりとりは、自尊感情や自己肯定感を高めることにつながります。もし、お子さんがSOSを発信したときは、共感的に受け止め学校にご連絡ください。
- ③ 愛校心や所属感、安心感にもつながり、児童の成長に大切なものです。学校批判や担任批判の前に学校に連絡ください。共に解決していきます。
- ④ 報道でも取り上げられる機会が増えましたが、本校でも、教職員の働き方改革に取り組んでいます。教職員が遣り甲斐や幸福感、使命感をもって職務に取り組めることが、児童の教育に良い影響を与えていると考えています。働き方改革を通して、教育効果を高めることに繋がるよう改革を進めたいと考えています。ご意見があれば校長まで連絡ください。

11日（木）の登校時間に、校門に立っていると、入学式の約束を守って「おはようございます。」と明るい挨拶が響きました。とても微笑ましい光景でした。また、1年生の手を引いたり、ゆっくり寄り添って歩いて登校したりする2年生から6年生の姿も多く見られ、優しい心が行動になって見えてきた素敵な瞬間でした。登下校の時に児童の安全を見守っていただいているスクールガードボランティアの皆様、社会福祉協議会やPTAの皆様、ありがとうございます。そして、今年もよろしくお願いいたします。